1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471300244
法人名	社会福祉法人　迫川会
事業所名	いちょうの里　グループホーム　ぎんなん荘
所在地 （電話番号）	栗原市築館字下宮野館108 （電　話）0228－22-7888

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2-8　テルウェルビル
訪問調査日	平成19年6月11日

【情報提供票より】（平成19年　5月　25日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　13年　8月　4日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14　人	常勤　14　人，非常勤　0　人，常勤換算 14

（2）建物概要

建物形態	併設／〇単独	〇新築／改築
建物構造	木造　造り	
	階建ての　階　～　階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	20,100　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		〇無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 〇無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	0　円
	または1日当たり	1、000　円		

（4）利用者の概要（　5月　25日現在）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3	名	要介護2	6	名
要介護3	5	名	要介護4	2	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢　平均	85,7　歳	最低	75 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	栗原中央病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣の地域で行われるイベントには積極的に参加している。また事業所近くのボランティアの人達による活動が活発でひっきりなしに来てくれる。職員は利用者と共に暮らす者同士として、本人の思いを共感し、理解することを重要なこととしてとらえ、一緒に楽しみながらともに過ごしている。また、利用者一人ひとりの思いや希望、意向などの把握をするため家族からはもちろん本人からも直接聞き取りをするなど全員が前向きに一生懸命取り組んでおり、利用者の笑顔も絶えない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 相談、苦情受付の明示について、行政機関などの受付先の記載、及び第三者の受付先も決めていないので改善を要するであったが、運営推進委員会のメンバーである区長、民生委員、ボランティア友の会会長にお願いして重要事項説明書に記載済みである。また行政機関などの受付先についてはポスターに記載し掲出している。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 改善項目を「自己評価による改善計画シート」に記載しミーティングで話し合い、運営推進会議で報告し、改善に向けて検討している。改善項目の第一順位として 「地域密着型サービスとしての理念」第二順位として 「地域資源との協働」をあげ取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 協議事項として説明し、意見を出し合い、未解決のものは次回に経過報告をし、検証している。①昨年外部評価で要改善となった苦情受付の明記について、「解決済み」②自己評価による改善項目（地域密着型サービスとしての理念） ③地域資源との協働　④医療体制加算　⑤新人教育等については取り組み中である。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族の来訪時に、または手紙や電話で暮らしぶりや健康状態を伝えている。同時に意見や苦情などを聞くようにしている。家族会（年3回）等でも常に問いかけ、意見箱、苦情受付窓口等で出された意見、要望はミーティングで話し合い、申し送りノートに記載し、今後に反映させている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域の夏祭り、運動会などには利用者と共に積極的に参加している。また、事業所の近くの複数のボランティアの会や老人クラブの人達が花を植えに来てくれたり、保育園の園児や小学生が遊びに来てくれたり、中高校生がボランティアとして活動に来てくれるなど地域との交流がある。

2. 評価結果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は迫川会のものであり、グループホーム「ぎんなん荘」独自に作り上げた「重点目標」を掲げているが、地域との関わりはうすいものである。	○	平成19年度の自己評価を全員で取り組んだ中で地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、改善項目の第一順位として取りあげているものであるが、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念を作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず「重点目標」を伝え、理解してもらうようにしている。また実践の中で感じたこと、困っていること等を　10日間ノートに取ってもらい担当者・管理者がコメントをしている。ミーティングや申し送り、関わりの中で都度確認し合うようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、運動会等には利用者と共に積極的に参加している。また、事業所近くのボランティア友の会等や老人クラブの人達が花を植えに来たり、保育所の園児や小学生が遊びに来たり、中・高生がボランティアとして活動に来るなど、地域との交流があるので、今後も継続をお願いしたい。。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、評価で見いだされた課題について改善計画をたて、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度改正に関わる事柄などについて電話相談をしているが、日常的にグループホームを理解・支援してもらうなどの働きかけが不足している。	○	市職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、話し合いや相談の機会を多くし、事業の受け入れなど職員や利用者との交流を図り、サービスの質の向上の取り組みに期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した時には必ず、写真やビデオ、「ぎんなん荘だより」で暮らしぶりや健康状態を伝えている。遠方で来訪が困難な家族に対しては、手紙や電話、「便り」で状況を伝えている。金銭管理については月一回は出納状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会（年3回）、手紙等で常に問いかけている。意見箱、苦情受付窓口で何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見・要望等はミーティングで、または申し送りノートに記入し、今後に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの管理者は開設以来変わっていないものの、法人の異動を極力少なくするように働きかけている。変わる場合は利用者へきちんと紹介し、ホームのことを教えてもらうようにしている。また、新人の場合は分らないこと、悩んでいること、感じたこと、良かったことなど10日間ノートを取ってもらい担当職員、管理者がコメントをするなど少しでも早く一人前になるよう努力している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修委員会がある。また、グループホーム協議会に加入しており年間計画が出来ている。交換研修で他のグループホームを観てくることも出来る。毎日のミーティングや1ヶ月に1回の会議で研修報告をして全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内組織の同業者ネットワークに加入している。また交換研修や他のグループホームとの合同勉強会があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらったり、職員が会いに行ったりして職員や他の利用者との交流を持ち、場の雰囲気に馴染むようにしてから利用に移行している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に暮らすもの同士として「こだわり」や「苦しみ」「哀しみ」「不安」「喜び」「楽しみ」などの本人の思いを共感し、理解することを重要なことと捉えており、共に支えあえる関係づくりに留意している。今後も継続をお願いしたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってどこで誰とどのように暮らすことが最良なのかを家族が面会に来た時に本人も入って検討している。本人から聞き取りをすることはとても大事なことなので、今後も継続をお願いしたい。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度は介護計画について入居者や家族の意向を確認している。また、最低1ヶ月に1回は見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お盆、正月、土、日は自宅外泊希望者がいれば支援する等利用者への柔軟な対応は出来ているが、常に満室であったため近隣の高齢者が状況に応じてショートステイを利用することについては考えたことがなかった。	○	デイサービスやショートステイはいろいろ条件等はあるが、将来のこととして取り組みを考えておいてもらいたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞きながら進めている。また、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが一人暮らしで来た人に対しては施設で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師、看護師と話し合いをしている最中であり、運営推進会議でも説明し、取り組み中である。	○	擬似家族としてなじみの関係ができ本人の希望がある場合の終末期の対応について、関係者で話し合い方針や支援の具体的な内容等を整理していただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は利用者の希望を聞いて栄養士が作成し、調理や盛り付け、片付けは共同で行っている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。入浴前の健康チェック、身体チェック、入浴後の静養と水分補給をしている。入浴を拒む人に対しては、週2回の入浴や清拭をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、編み物、縫い物など、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらっている。また、昔の料理など教えてもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に合わせて自宅、歯医者、買い物、互市、歌、踊り、集い、ふれあい、祭りなどへよく出かけている。今後も継続をお願いしたい。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特養ホームの方に写真を預けている。また、ディーサービスのスタッフの方が「どこに行くの」などと声をかけてくれる。利用者一人ひとりの外出の癖や傾向をつかんでいるが、もしもの時のために玄関に鈴をつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の避難訓練、消火訓練を消防署の協力を得ながら利用者と共に行っている。また、夜間想定の訓練もしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、毎月1回体重チェックをし、特養ホームの管理栄養士や保健師からの栄養の専門的な観点から指導や助言を受けている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い食堂に大きなテーブル、適切な大きさの時計と日めくりカレンダーが見やすい場所に設置されている。換気が行われ、臭気や空気のよどみがない。照明や陽射しがまぶしかったり、暗かったりしない。利用者にとって居心地がよく安心して過ごせる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすとベッドは備え付けとなっているがその他はそれぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意し、その人らしく過ごせる部屋となっている。		